研究分野	授業科目名	科目責任者
形態系分野	腫瘍内科学特論Ⅰ・Ⅲ	瀧川 奈義夫

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

腫瘍性疾患に関する分子生物学的診断とがん薬物療法を行うための，基礎知識を修得する。

授業到達目標

（1）腫瘍性疾患の診療のなかで疑問をもち，仮説を立てそれを証明するための基礎実験を組むことができる。
（2）殺細胞性抗がん薬・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬の作用機序，薬物動態を理解し，臨床に応用可能な基礎実験を組むことができる。
（3）胸部悪性腫瘍・血液疾患の発癌機構および免疫回避機構を解明し，新規治療法開発の基礎研究を組むことができる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	隔週	金	17:00-18:00	瀧川 奈義夫	講義	[抄読会]	肺がん分子生物学のトランスレーショナル研究に関する英語文献を紹介し，討論する。 [場所:総合医療センター11 階西カンファレンス室]
2	毎月	第 2 金	17:00-18:00	山根 弘路	講義	[抄読会]	腫瘍免疫学の基礎研究に関する英語文献を紹介し，討論する。 [場所:総合医療センター11 階西カンファレンス室]
3	毎月	第 3 金	17:00-18:00	中西 秀和	講義	[抄読会]	血液腫瘍のトランスレーショナル研究に関する英語文献を紹介し，討論する。 [場所:総合医療センター11 階西カンファレンス室]
4	毎月	第 4 金 第 5 金	17:00-18:00	越智 宣昭	講義	[抄読会]	分子生物学の手法とその臨床応用について，英語文献をもとに討論する。 [場所:総合医療センター11 階西カンファレンス室]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1） 1 年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1 年間※で，論文紹介または症例発表を 2 回行い，その要約 2 編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1） 1 年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1 年間※で，論文紹介または症例発表を 2 回行い，その要約 2 編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※ 1 ～ 3 年生は 2 月末まで，4 年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

紹介論文の理解内容を諮問，あるいは要約を添削する。

教科書

ISBN-978-4-524-20426-7, 新臨床腫瘍学 （改訂第 7 版）, 日本臨床腫瘍学会, 南江堂, 2024

参考書

ISBN-978-1-975184-74-2, DeVita, Hellman, and Rosenberg's Cancer : Principles & Practice of Oncology（12th Edition), V.T.DeVita,Jr., T.S.Lawrence & S.A.Rosenberg, Wolters Kluwer Health, 2023

準備学習（予習・復習等）

（1）自身の研究に関する英語論文を，1 時間以上かけて読み込んでくること。
（2）講義の後，7 日以内に論文の要点を提出すること。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求し，仮説立脚，検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉する。

注意事項・メッセージ

年に一度の学会発表を行うこと。